サンプル

|  |
| --- |
|  　　　年　　　組　　　番 |
|  名前 |

第２章　さまざまな人生観・

倫理観・世界観Ⅰ

　１節　哲学すること

【１】次の文章を読んで，下記の問いに答えなさい。

　哲学的な思索は，日常生活の中でふとわたしたちがいだく疑問や驚きなどからはじまり，さまざまな根源的な問いについて考え，答えを導きだそうとする人間の知的な営みである。「哲学」ということばの語源は，古代ギリシャ語で「知を愛し求める」を意味する「フィロソフィア」に始まる。これを「哲学」ということばのもととなる「希哲学」と訳したのが，明六社の一員だった（　１　）である。

　古代ギリシャで「フィロソフィア」ということばをはじめて使ったのがピタゴラスである。彼は，(ａ)自分が「ソフォス（知者）」としてではなく，「フィロソフォス（知恵を愛し求める者）」として真理を探究し続ける存在だと考えた。また，18〜19世紀ドイツの哲学者（　２　）は，「人はどのような哲学も学ぶことはできない。人が学びうるのは，ただ哲学することだけである」と語った。さらに19世紀の哲学者マルクスは「哲学者たちは，世界を多様に解釈してきただけである。肝心なのは，世界を変えることである」と語り，哲学の 　Ａ　 によってより良い社会を作ることを求めた。これらの哲学者たちに共通する，哲学の基本は，その議論の中に合理性と(ｂ)普遍性があることである。すべてに共通する真理を目指して探究する態度によって，（ｃ）自然科学が発展した。

　私たちが哲学を進める上で気をつけたいのは，答えが確定しない問題について，結局わからないし知ることができないと考える（　３　）論におちいってしまうことだ。あるいは（ｄ）独断論も哲学の可能性を閉ざしてしまう。あらゆる考えを批判的に検討して健全に疑う懐疑の姿勢が重要である。答えの確定しない根本的な問いに向き合い，考え続ける営みが哲学であり，それこそ理性をもった人間の本質的なあり方である。

問１　（　１　）～（　３　）の空欄にあてはまる語句を答えなさい。（知識・技能）

問２　空欄 　Ａ　 に入る最も適当な語を，次の①〜④のうちから一つ選んで記号で答えなさい。（知識・技能）

①　理論　　②　実践　　③　主観　　④　客観

問３　下線部(ａ)について，その根拠を簡単に説明しなさい。（思考・判断・表現）

問４　下線部(ｂ)について，普遍性についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選んで記号で答えなさい。（思考・判断・表現）

①　そのものだけがもっている固有の性質

②　他と異なり一部分にだけある特別の性質

③　すべての場合にあてはめることのできる性質

④　理性にかない論理的に筋道を立てて考える態度

問５　下線部(ｃ)について，哲学と自然科学の共通点を簡単に示しなさい。（思考・判断・表現）

問６　下線部(ｄ)について，独断論がなぜ哲学の可能性を閉ざしてしまうのか，簡単に答えなさい。（思考・判断・表現）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問１ | （1）（知識・技能） | （2）（知識・技能） | （3）（知識・技能） | 問２ | （知識・技能）　 |
| 問３ | （思考・判断・表現）　 |
| 問４ | （思考・判断・表現）　 | 問５ | （思考・判断・表現）　 |
| 問６ | （思考・判断・表現）　 |

第２章　さまざまな人生観・

|  |
| --- |
|  　　　年　　　組　　　番 |
|  名前 |

倫理観・世界観Ⅰ

　２節　ギリシャの思想

【１】次の文章を読んで，下記の問いに答えなさい。

　哲学成立以前の古代ギリシャでは，ホメロスやヘシオドスたちによる叙事詩が，ゼウスなどの神々による（　１　）にもとづいて世界の秩序や人間の倫理を説いてきた。しかし，(ａ)ポリスの市民たちは，人間の立場で真理を探究する哲学を生み出した。哲学は（ｂ）ロゴスにおける真理の探究であると定義される。

　アリストテレスは，（　２　）が哲学の創始者であるとした。（　２　）は（ｃ）万物の根源が水であるという考えを示した。「万物の根源は何か」という彼の問いは，実践を離れた理論にもとづくものであり，ギリシャ哲学の始まりにふさわしい問いであった。（　２　）の後，生成変化する自然の根源を探究する哲学者たちが続いた。「万物は流転する」という立場で有名な（　３　）は，永遠に生きる火が世界の生成変化をもたらすと考えた。また，ピタゴラスは万物の始源を数であると考え，生成変化する宇宙の調和は，自然数の比によってもたらされるとした。

　一方，現在の南イタリアにあたるエレア出身の（　４　）は「あるは，ある。ないは，ない」を原理として，生成変化しない永遠の存在こそが万物の始源であると考えた。（　４　）以降の自然哲学者たちは，（ｄ）生成変化する自然の原理と不生不滅の存在の原理を両立させる哲学を生み出した。（　４　）の原理は，さらにプラトンやアリストテレスの哲学にも影響を与えている。

　前５世紀半ばのアテネでは民主政治が完成し，言論の自由の下で政治的言論，演劇，歴史，自然科学，そして哲学が発展した。このような時代において演説などにおいて聴衆を説得する術である（　５　）を徳（アレテー）として教えるソフィストとよばれる知識人たちが登場してきた。彼らは，考察の対象を自然（ピュシス）から法・習慣（ノモス）へと移し，人間社会の法や制度についての思索を深めた。その代表的人物であるプロタゴラスは，（ｅ）「人間は万物の尺度である」ということばを残した。

問１　（　１　）～（　５　）の空欄にあてはまる語句を答えなさい。（知識・技能）

問２　下線部(ａ)について，ポリスでの生活が哲学的考察を生み出した理由は何か。「スコレー」と「テオリア」の語を使って簡単に説明しなさい。（思考・判断・表現）

問３　下線部(ｂ)について，ロゴスは日本語でどのような意味をもつか。四つあげなさい。（知識・技能）

問４　下線部(ｃ)について，万物の始源を意味するギリシャ語を，次の①～④のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

①　ピュシス　　②　アレテー　　③　ヒストリア　　④　アルケー　　　　　　　　　　　　　　（知識・技能）

問５　下線部(ｄ)について，生成変化と不生不滅を両立させる自然哲学についての記述として最も適当なものを，次の①～⑤のうちから一つ選んで記号で答えなさい。（思考・判断・表現）

①　エンペドクレスは，土・水・空気・火という不変の四元素から世界は成り立っているとした。

②　デモクリトスは，生成生滅という変化や運動は，人間の感覚による思いこみにすぎないとした。

③　タレスは，「万物は流転する」と考え，その根源を「永遠に生きる火」であるとした。

④　ヘラクレイトスは，万物の根源をそれ以上分割することのできない微小な物体的存在である「原子」に求めた。

問６　下線部(ｄ)について，「人間は万物の尺度である」ということばはどのような立場を示すか，簡単に答えなさい。（思考・判断・表現）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問１ | （1）（知識・技能） | （2）（知識・技能） | （3）（知識・技能） | （4）（知識・技能） | （5）（知識・技能） |
| 問２ | （思考・判断・表現）　 　　 |
| 問３ | （知識・技能） | 問４ | （知識・技能）　 | 問５ | （思考・判断・表現）　 | 　 |
| 問６ | （思考・判断・表現）　 |

【２】次の文章を読んで，下記の問いに答えなさい。

　ソクラテスは，ソフィストたちのように弁論術を教え込むのではなく，アテネで若者たちや市民たちとの対話を行った。自分自身も不知でありながら，対話を通して（ａ）思い込みの中にいる人と生を吟味する方法が（　１　）である。対話の相手と問答を重ねると，相手の考えが，最初の命題と矛盾してアポリア（行き詰まり）に陥ってしまう。そこで，対話相手は自分の思い込みが間違っていたこと，つまりみずからが不知であることを自覚せざるをえなくなる。ソクラテスは，このような対話による知の吟味を「（　２　）への配慮」と呼んだ。問答の中で相手の信念を取り出し，その生き方を互いに吟味すること，それが「ただ生きるのではなく，善く生きる」ことであり，（　２　）ができるだけすぐれたものになるよう配慮することなのである。ソクラテスはそれが哲学の営みであり，それこそが幸福を実現すると考えた。　Ａ　 ソクラテスの立場は主知主義ともいわれる。しかし，混迷をきわめる政局の中でソクラテスの活動は一部の政治家などの反感をまねき，彼は告発され裁判ののちに死刑を宣告された。判決を不当としソクラテスに対して逃亡をすすめる友人もいたが，(ｂ)彼は死罪を受け入れ，みずから毒杯をあおいでその生涯を閉じた。

　プラトンはソクラテスの精神を受け継ぎ，哲学的探究を続けた。彼は私たちの生きるこの世界は真の実在としての（　３　）が根拠となっているとする理想主義の哲学を唱えた。（　３　）を探究することによって，私たちがより善く生きることができると考えたのである。また，「洞窟の比喩」によって 　Ｂ　 を示して，太陽にもたとえられる究極の存在が善の（　３　）であることを明らかにした。人間は永遠で不死の存在を追い求める。その（　３　）への憧れの愛が（　４　）である。このような理想主義の態度は政治哲学にもあらわれている。プラトンは国家を(ｃ)人間の魂と同様にとらえ，(ｄ）哲人政治を理想とした。

問１　（　１　）〜（　４　）の空欄にあてはまる語句を答えなさい。（知識・技能）

問２　下線部(ａ)について，思い込みを意味するギリシャ語を，次の①～④のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

 （知識・技能）

①　プシュケー　　②　ディアロゴス　　③　ドクサ　　④　アレテー

問３　空欄 　Ａ　 にあてはまる文として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

（思考・判断・表現）

①　真理と現実の一致を目指し実践・行動を重視する

②　知恵と徳の一致を目指し知識・理性を重視する

③　倫理と幸福の一致を目指し富・名誉を重視する

問４　下線部(ｂ)について，ソクラテスが脱獄の誘いを退けた理由を簡単に説明しなさい。（思考・判断・表現）

問５　空欄 　Ｂ　 にあてはまる文として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

（思考・判断・表現）

①　世界の本当のあり方を知らない人間が求めるべき世界

②　束縛から逃れることのできない愚かな人間の姿

③　個人の経験だけが信頼できる現象であるという現実

問６　下線部(ｃ)について，プラトンの魂の考え方として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選んで記号で答えなさい。（思考・判断・表現）

①　人間の魂は，知恵・気概・欲望の三部分にわけられる。

②　魂の気概の部分は，理性による指導のもとに節制の徳をもつ。

③　魂と国家に共通する徳が知恵・勇気・節制・正義の四元徳である。

問７　下線部(ｄ)について，哲人政治について簡単に説明しなさい。（思考・判断・表現）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 問１ | （1）（知識・技能）　 | （2）（知識・技能）　　 | （3）（知識・技能）　 | （4）（知識・技能）　 | 問２ | （知識・技能）　　 |
| 問３ | （思考・判断・表現）　　 | 問４ | （思考・判断・表現）　　 |
| 問５ | （思考・判断・表現）　　 | 問６ | （思考・判断・表現）　　 |  |
| 問７ | （思考・判断・表現）　 |

【３】次の文章を読んで，下記の問いに答えなさい。

　プラトンの理想主義に対して，アリストテレスは目の前の個々の実体を基本とする（　１　）主義をとった。彼は，生物の観察を通してこの世界を自然物の総体ととらえた。現実世界の個物に内在する事物の本質を「（　２　）」と呼び，その素材となるものを「（質料）ヒュレー」と呼んだ。また，これらに加えて，自然の中には「始動」の原因と，テロスと呼ばれる変化の終局としての「（　３　）」の四つの原因があると考えた。アリストテレスはこの世界の自然物のすべてが（　３　）としての最高善を目指して運動・変化しているとする（　３　）論的自然観を唱えた。また，人間が目指す幸福のためには魂の徳が必要であると考えた。徳には知性的徳と（ａ）倫理（性格）的徳があるが，知性を働かせることによって幸福か観想的生活を実現することができる。さらに，（ｂ）アリストテレスの人間観にもとづいて，人間は国家や社会といった現実世界を離れて生きることはできないとして，国家の成立に重要な正義と友愛の徳を重んじた。

　紀元前４世紀ごろになるとアレクサンドロス大王の登場によって古代ギリシャの哲学を生み出したポリス社会が崩壊し，ヘレニズム文化が形成された。この時代，（　４　）主義を提唱して，（ｃ）原子論を徹底して信じることからアタラクシアを目指したエピクロスや，「自然にしたがって生きる」ことで（　５　）を目指したストア派のゼノンのように，コスモポリスに生きる人間として 　Ａ　を求める思想家が多く登場した。また，近代の哲学者たちに大きな影響を与えることになる懐疑派や，その後にはプラトンを再解釈して神秘主義的な洞察をおこなった(ｄ)プロティノスなどの思想家も登場した。

問１　（　１　）～（　５　）の空欄にあてはまる語句を答えなさい。（知識・技能）

問２　下線部(ａ)について，倫理（生活）的徳がどのように成立するかについて簡単に説明しなさい。

（思考・判断・表現）

問３　下線部(ｂ)について，アリストテレスの人間観を簡潔に答えなさい。（思考・判断・表現）

問４　下線部(ｃ)について，原子論を信じることでなぜ心の平静を得ることができるのか，簡単に説明しなさい。

（思考・判断・表現）

問５　下線部(ｄ)について，新プラトン主義の思想の説明として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選んで記号で答えなさい。（思考・判断・表現）

①　たえず移り変わるこの現実の世界を超越して，永遠に変わることのない理想の世界が実在する。

②　多様なものは，それに先立つ「一者（ト・ヘン）」から流出し，魂は一者への帰還と合一を目指そうとする。

③　どんな信念にもその根拠を疑うことが可能であり，特定の信念に固執せず，判断を保留する道を説いた。

問６　空欄 　Ａ　 にあてはまる文として最も適当なものを，次の①～③のうちから一つ選んで記号で答えなさい。

（思考・判断・表現）

① 神への信仰の拡大　　② 地域共同体の安定　　③ 自然の根源の探究　　④ 個人の内面的な幸福

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 問１ | （1）（知識・技能）　 | （2）（知識・技能）　 | （3）（知識・技能）　 |
| （4）（知識・技能）　 | （5）（知識・技能）　 |
| 問２ | （思考・判断・表現）　 |
| 問３ | （思考・判断・表現）　 |
| 問４ | （思考・判断・表現）　 |
| 問５ | （思考・判断・表現）　　 | 問６ | （思考・判断・表現）　　 |  |

※本データはサンプルデータです。製品版ではこのあとに問題・解答例が続きます。